

- 2016年の国内新車販売（登録車、軽自動車）は500万台を割り497万台（前年比1.5%減）だった。内訳は登録車が324万4798台（同3.0%増）、軽自動車は172万5462台（同9.0%マイナス。）軽自動車は、車税の増税や景気停滞に影響が大きく今後の動向が注目される。

車名別販売台数を見ると、登録車では、プリウス（トヨタ）24万8258台（同94.9%増）でダントツのトップ。以下、アクア（トヨタ）16万8208台（同22.0%減）、シエンタ（トヨタ）12万5832台（同96.9%増）、フィット（ホンダ）10万5662台（同11.8%減）、ノート（日産）10万2402台（同4.5%増）、以上が10万台を超えた。以下、ヴォクシー（トヨタ）、カローラ（トヨタ）、ヴェゼル（ホンダ）、セレナ（日産）、ヴィッツ（トヨタ）が10位までの車種だ。

軽自動車ではN-BOX（ホンダ）18万6367（同0.8%増）、タント（ダイハツ）15万5998台（同1.1%減）、デイズ（日産）10万5731台（29.8%減）と続く。

- ハイブリッド全盛時代となった。2016年の国内ハイブリッド車販売台数が、前年比13.0%増の106万9946台となり、2年振りに過去最高を更新した。プリウスが24万8258台（前年比94.9%増）でトップ、以下、アクア（トヨタ）、セレナ（日産）、フィット（ホンダ）、ヴェゼル（ホンダ）、シエンタ（トヨタ）と続く。ハイブリッド車でも4WDが設定されている車種が強い傾向にある。特に、北海道や雪国地域では4WDの設定は増販に不可欠だ。

- 一方、2016年の輸入車ブランド別では、第1位がメルセデスベンツの6万7386台（前年比3.4%増）、以下、BMW 5万0571台（同9.4%増）、フォルクスワーゲン4万7234台（同13.8%減）、アウディ2万8502台（3.1%減）、BMWミニ2万4548台（同16.4%増）の順となった。

ジープが9392台（同31.7%増）と急成長し今後も伸びが期待される。一方、フォルクスワーゲンの減少が際立つが、今後は新型車の投入や販売努力で復活が期待される所だ。

しかし、世界販売ではフォルクスワーゲンが1031.2万台でトヨタの1017.5万台を抜いて初の首位に立った。中国市場で明暗を分けた。

今年の、トヨタ対フォルクスワーゲンの対決（？）が注目だ。

- ちなみに、昨年12月の燃料別販売を見ると、販売全体に占めるエコカーの構成比は、ハイブリッド車が35.8%（前年比11.4%増）、ディーゼル車が4.7%（同、3.5%減）、プラグインハイブリッド車が0.4%（同1.0%増）だった。ガソリン車の構成比は58.0%（同0.8%増）

- さて、今年の新車市場は、10月に東京モーターショーが開催される年でもあり、国内メーカーは新車の開発、発売に意欲的だ。また、輸入車も国内販売は前年を上回る、30万台突破が予想され、登録車全体では昨年の322万台を上回る勢いがある。新型車の登場状況次第では、330万台を超え340万台になりそう。明るい業界だ。

一方、軽自動車はホンダの新型N-BOX登場、日産のデイズの健闘などで、前年並みを多少上回る175万台超え位か。いずれにしても、登録車、軽の合計で500万台は突破すると見たい。

東京モーターショーが終わる11月以降は、米国トランプ大統領の政策次第で、自動車市場の生産、販売状況は変わってきそう。グローバル的にも、トランプ対トヨタの対応、駆け引きが注目される年となりそう。 (T・S)